長野の林業

No. 408
2026.11.10

特　集　暮らしの中に広がる信州の木
木曽谷・伊那谷フォレストバレーの今



トピックス
・伐木チャンピオンシップ
・林業総合センターの取組

地域の話題
・南信州地域/木曽地域

県森連だより



正面東側



ロビー



併設カフェ

長野県産木材を活用した木造ZEB施設

八十二長野銀行伊那北支店（令和７年９月竣工）

脱炭素社会の実現に向けた取り組みの一環として、長野県産木材（約113㎥）を使用した木造建築を採用し、エネルギー消費量を正味ゼロとする「Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）」を実現しています。柱、梁、間柱、垂木、縦格子などに県産材が活用されています。

長野の林業
フルカラー版

県産材〝あれこれ話〟2026

あれこれ　その1

暮らしの中に広がる信州の木
～家具・木工品から木質バイオマスまで～

「つなぐ木のいのち展」での木工品を展示

10月3日(土)、4日(日)の2日間、長野県がゼロカーボン推進の拠点とする長野市のくらしふと信州において、「つなぐ木のいのち展」実行委員会による木工品と精油の展示販売会が開催されました。

「つなぐ木のいのち展」は昨年に引き続きの開催となりました。会場では、県内各地のつくり手13事業者が集い、家具や生活道具、木の香りを生かした製品など、信州の木を活用して丁寧に製作された多彩な品々が展示販売されました。

また、SNSを活用した積極的な情報発信により、県内のみならず県外の方々にもイベントを広く知っていただく機会となり、広葉樹を含む多様性のある信州の木の魅力を広く発信することができました。

4日は善光寺表参道秋まつりと同時開催で、トイーゴ広場前にも出店を行ったことから、2日間で関係者を含め約千人超にご来場いただきました。来場者はつくり手と対話しながら、信州の森林から生まれたものに込められた思いや木材の特徴について理解を深めるとともに、信州の木を暮らしに取り入れることが、ゼロカーボン達成への身近な一歩であることを実感する機会となりました。


つくり手の思いがこもった作品


アルクマもきてくれました

「あったか信州！　炎のぬくもり体験会」を開催

10月17日(土)、18日(日)の2日間、松本市の信毎メディアガーデンにおいて、薪ストーブ・ペレットストーブ普及啓発イベントを開催しました。本イベントは昨年に引き続き2回目の開催となり、県内の薪ストーブ・ペレットストーブ販売店7社に出展いただきました。会場では、実際に燃焼するストーブの炎や暖かさを体感していただき、多くの来場者に木質バイオマス利用ならではの快適性や魅力を知っていただく機会となりました。また、体験会では薪割り体験や煙突掃除の方法紹介に加え、「薪ストーブの上手な焚き方講習会」を開催し、燃料の効率的な活用方法や安全な使用方法、日常の維持管理のポイントについて理解を深めていただきました。実際に見て、触れて、体験できるイベントを通じて、木質バイオマスを身近なエネルギーとして感じていただくとともに、その利用拡大に向けた普及啓発を図ることができました。今後も様々なイベントや情報発信を通じて、木質バイオマスの利用促進と県産材の有効活用を進めてまいります。



ストーブの魅力を紹介


体験会のようす

あれこれ　その2

県産材ブランドの新たな一歩
～県産材ロゴマークの商標登録を取得～

県では、令和7年3月から県産材及び県産材製品のＰＲに活用しているロゴマークについて、令和7年7月に商標登録を出願し、令和8年7月22日に商標登録を取得しました。

商標登録の取得により、県産材製品のブランドイメージの向上や信頼性の確保が図られるとともに、消費者が県産材製品を認識しやすくなることが期待されます。

今後も県の広報媒体や各種イベント等で積極的に活用するとともに、民間事業者による木工品や家具、建築物等への利用を促進し、県産材の認知度向上と利用拡大、さらには「信州の木」ブランドの発信強化につなげてまいります。

NAGANO WOOD PRODUCT®
つなぐ木のいのち

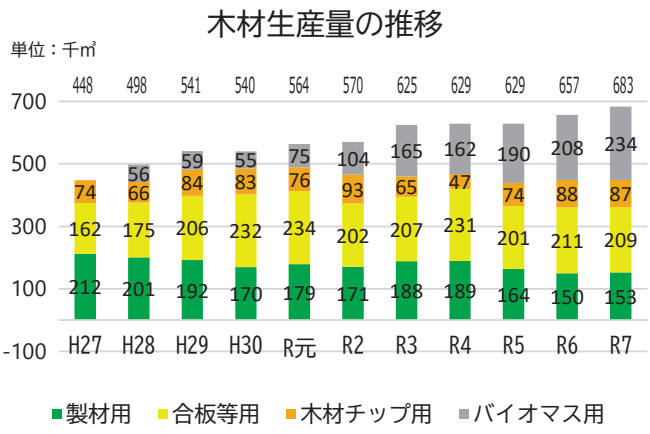
登録商標マーク®を付したロゴマーク

あれこれ　その3

木材生産量について
～過去10年で最高の生産量に～

令和7年の県内木材生産量は68万3千㎥となり、前年から2万6千㎥増加し、過去10年間で最高を記録しました。

住宅着工戸数の減少等の影響により製材用等の需要は前年並みで推移したものの、木質バイオマス発電向け需要の拡大が木材生産を力強く牽引し、県内森林資源の有効活用が進みました。



【県産材利用推進室】

お耳を拝借

「森の国・木の街」づくり宣言をしませんか。

「森の国・木の街」づくり宣言とは、自治体や企業等の皆様が、

① 建築物の木造化など木材利用の推進

② 木材利用の効果の見える化

に取り組むことを宣言するもので、令和７年10月１日より農林水産省が募集を開始しています。

応募をいただける皆様は、右の二次元コードまたは、下記ＵＲＬ内の登録フォームより宣言をお願いします。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/rinyahp/20251001-1.html

令和８年10月１日現在、長野県の他３市村、14の事業体の皆様が宣言されています。

木曽谷・伊那谷フォレストバレーの今 ～令和8年度の取組～

■12のプロジェクトが進行中

本格始動から2年目に入った木曽谷・伊那谷フォレストバレー。昨年度に引き続き、関係機関や民間事業者が展開する様々なプロジェクトを通じてフォレストバレーが目指す「木や森の『学び』と『暮らし』に会える場所」を具体化する取組を一歩ずつ進めながら、連携の環を広げています。

関係機関が主体となるメインプロジェクトは、前年度から継続して7件を実施。「目指せ世界水準！林業技能向上プロジェクト」では、今年で3回目となる「信州伐木チャンピオンシップ」を開催し、年々競技者層が広がりレベルが上がっていることが感じられました（次頁参照）。「木と森の暮らしと働き総出プロジェクト」では新しい試みとして、伝統的工芸品の魅力に触れ、職人の技を間近で見学する「木曽の産地をめぐるバスツアー」を開催し、高校生21人を含む35人が参加しました。その他に、林業総合センターの森林学習展示館の機能強化を図る「学びの拠点形成プロジェクト」（6頁参照）や、信州大学農学部の学生が地域の森林と関わる様々な人々と出会う「課題発見オータムスクール」などの取組をそれぞれ進めています。

フォレストバレー関係機関が主体となって進める **メインプロジェクト**	民間事業者等の創意工夫による **関連プロジェクト**
・課題発見オータムスクール【信州大学農学部】 ・林業技能向上プロジェクト【県（実行委員会）】 ・木工拠点形成プロジェクト【上松技術専門校】 ・森林ベンチャースクール【事務局（県）】 ・高度専門人材育成プロジェクト【事務局（県）】 ・学びの拠点形成プロジェクト【林業総合センター】 ・木と森の暮らしと働き創出プロジェクト【木曽地域振興局】	・人づくり承りますプロジェクト 新（子ども・薪・アロマ）【合同会社ちいもり】 ・みのわ「森と里山」の環プロジェクト 新【株式会社みのわ振興公社】 ・伊那谷フォレストカレッジNEO事業【（株）やまとわ】 ・「里山暮らし」ブランディングプロジェクト【（株）あっとホーム】 ・森を削って未来を描く【合同会社太太】

一方、民間事業者の提案による関連プロジェクトは今年度新たに公募による2件を採択し、全体では現在12件のプロジェクトが進行中です。（上表参照）



木曽の産地をめぐるバスツアー


信州大学課題発見オータムスクール

■「香るNAGANO」はじめました

「暮らし」や「イノベーション」に関わる新しい動きも生まれています。今年6月、県内の未利用森林資源（枝葉や製材端材等）から生まれる精油の活用を広げるための「香るNAGANO」推進コンソーシアムを設立（事務局：県林業総合センター内）。林業関係者や精油生産者、販売事業者等が参加し、9月には共同開発による新商品を発表・発売しました。今後も「香り」を接点にした多様な業種との連携を進めて森の魅力発信に取り組んでいきます。

香るNAGANO



■更なる連携の広がりに向けて

この他にも、木や森に関わる地域の様々な行事を「フォレストバレー関連行事」と位置付けてSNSでの情報発信を行う等、幅広い層へのつながり拡大と認知度向上を図る等しており、引き続きフォレストバレーの形成に向けて歩みを進めていきます。

【信州の木活用課】

最新の情報はこちらから

@KISO_INA_FORESTVALLEY
インスタグラム

ポータルサイト

信州伐木チャンピオンシップ2026が開催されました！

盛況に開催！

令和8年10月17日に長野県林業大学校において、チェンソーの安全かつ正確な操作技術を競う競技会「信州伐木チャンピオンシップ2026」が開催され、林業関係者や地域住民など約250人が来場しました。この競技会は、競技を通じて、林業就業者の安全意識と技術の向上を図るとともに、林業の魅力の発信や事業者間の交流を目的としており、長野県においては、昨年に引き続き3回目の開催となりました。県内の林業事業体や林業大学校等から23名の選手が参加し、日頃の業務や練習で磨いてきたチェンソー技術を披露しました。

「ビギナークラス」では、今回初めて参加した、南佐久中部森林組合の井出森之助（いでしんのすけ）選手が優勝しました。また、「エキスパートクラス」では、有限会社カネホ木材の川村岳（かわむらたかし）選手が2位と1点差の接戦を制し、見事、優勝に輝きました。参加した選手からは、競技の魅力について「競技を通じてチェンソーの安全な操作技術への理解が深まった」「競技を通じて他の事業体の選手と交流が深まる」といったコメントがありました。また、当日、解説員を務めた縣毅史さん（㈱ツリークライミングワールド）からは、「今年で3回目の競技会。年々、選手たちの技術のレベルが上がっていることが感じられる」との講評がありました。こうした感想から、競技会は技術を研鑽するとともに、事業者間の交流が生まれる機会であることが分かります。

競技会の意義

競技会の開催に当たり、選手及びスタッフは、事前に講習会を受講し、競技ルールの確認や実技練習を行っています。競技においては、誤った動作（＝危険な動作）は大幅な減点となり、また、ツル幅や受け口等の1㎜、1度といった僅かな差が得点に影響し、順位に繋がります。安全かつ正確な動作を理論的に学び、〝高得点を目指して競う〟という楽しさが加わることで、練習に励み、安全への理解の深化と技術の向上が図られます。

多くの関係者と作る競技会

本競技会の運営においては、林業事業体、団体、県職員など、70人近くのスタッフが参加したほか、県内外の林業関係の企業、団体23者から協賛として運営費の寄付や入賞者への賞品、ノベルティグッズ等を提供いただくなど、林業に関係する様々な主体が参画しています。技術や安全意識の向上、林業の魅力の発信に、林業界が一丸となって取り組んだ競技会になりました。

競技結果の詳細、競技のパンフレット等については、長野県のホームページで公開しています。

【信州伐木チャンピオンシップ実行委員会】（林務部信州の木活用課）

※本競技会は木や森に関する人材育成とイノベーション創出を目指す「木曽谷・伊那谷フォレストバレー」構想に関する取組です。



⇦合わせ輪切り競技
傾けた丸太を下側と上側から上下の段差が少なくなるよう伐り出す競技



伐倒競技（簡易方式）⇨
立木に見立てた丸太を正確に伐倒することを想定して、受け口、追い口を伐り出す競技



（オープン競技）
⇦ソーチェン着脱競技
チェンソーの刃を素早く付け替える競技。
わずか15秒の早業で付け替える選手もいました！



世界大会に出場経験のある高山審判（㈲矢守産業）も伐倒競技（簡易方式）に挑戦。目標物に対する伐倒方向のずれは、なんと“0㎝”でした！



多くの方にご来場いただきました



選手の皆様、本当にお疲れ様でした！

競技会についてはこちら

森林学習展示館を魅力的な「学びの拠点」に試験研究企画展を開催しています!!

森林学習展示館は、森林・林業について学べる施設として、昭和63年の開館以来多くの県民の皆様に利用されてきました。一方で、展示物の老朽化や来館者ニーズの変化への対応が課題となっています。このため、木曽谷・伊那谷フォレストバレーの取組みの一環として、森林・林業に関する最新の知見をわかりやすく発信する「学びの拠点」となることを目指し、昨年度から外部有識者の助言もいただきながら展示内容の見直しを進めています。

今年度は、展示内容の見直しと並行して、試験研究機関としての研究成果や知見を活かした企画展示を期間限定で試験的に実施しています。

4月から7月にかけては「クマと森の動物　試験研究展」を開催しました。また、5月16日(土)には一般向けの勉強会として、育林部研究員が展示内容や構内の森林に設置した散策コースを案内するイベントを開催しました。社会的関心の高いテーマとあって親子連れを含む21名の皆様にご参加いただきました。

7月からは県民の関心も高いマツタケをテーマに「マツタケはなぜ生えるのか」「なぜ減少しているのか」といった疑問について、当センターがこれまで取り組んできた研究成果を交えながら紹介する企画展「マツタケとその研究展」を開催しました。多くの県民の皆様にご来館いただき好評をいただきました。

さらに、10月からは、構内に棲息する動物をテーマとした企画展「塩尻片丘 森の生きもの今昔(いまむかし)展」を12月末頃まで開催しています。10月11日(日)には、塩尻市出身で鹿児島大学特任研究員の菊池先生をお招きし、ご自身が研究者を志すきっかけとなった林業総合センターのムササビとの出会いや、その後の研究について、研究者ならではの視点で分かりやすくお話しいただきました。定員を大きく上回る約60名の皆様に御参加いただき、関心の高さがうかがわれました。

今後は、企画展の開催に加え、デジタル展示の導入や、館内展示と構内森林を連動させた体験型の学習機会の充実を進め、来訪者の皆様が森と展示のつながりを実感できる施設づくりを進めてまいります。塩尻市にお立ち寄りの際は、ぜひ森林学習展示館へお越しください。


クマと森の動物　イベント


クマと森の動物　試験研究展



マツタケとその研究展



菊池先生ムササビ　イベント

【林業総合センター指導部】

南信州地域

フォレストカレッジアドバンスin根羽村を開催

矢作川の源流に位置する根羽村では、「川の流れ：流域」を一体ととらえ、上流と下流が互いに森林の持つ様々な価値を分かちあいながら経済をまわし、その利益が「その一滴を育む森」の整備に還元されていく「流域経済圏」の構築を目指しています。

9月5日から7日にかけて、この構想を体感するプログラム「Forest College Advance in 根羽村」が開催され、県内外から20代から50代の約20名が受講生として参加しました。プログラムでは、根羽村内の源流の森歩きから始まり、矢作川をなぞるように長野県（根羽村・平谷村）、愛知県（豊田市）、岐阜県（恵那市）を行き来しながら、農業や飲食業など、森林・林業に限らない地域事業者とその活動の場を訪問しました。

県境や業種を越えて集まった講師や地域事業者との交流は、受講生にとって「水」を介して地域や人々のつながりを感じる機会となり、水を育む森林と私たちの暮らしとのつながりを実感し、流域全体で森を支えることの意義について考えを深めました。

根羽村ではこのような取組みを通じて、まず流域圏の人や企業のつながりを育んでいます。その先に根羽村の森林や森林を取り巻く課題に、流域の人びとが集まり、手が入り、再び人が森を行き交う姿を目指しています。また、村内においてもこの理念を共有し、一体となって取組みを進める体制づくりを着実に進めています。〔写真提供：根羽村〕


源流の森を歩く@根羽村


川沿いのカフェで語る@恵那市


”流域”を体感しました

【南信州地域振興局林務課】

木曽地域

『御嶽山の麓、木の國木曽！市川團十郎と育む「豊かな森」づくりABMORI in きそまち』が開催されました

「ABMORI」は市川團十郎さんが、自然回復のための森林づくりを目的に平成26年から山ノ内町志賀高原ではじめた取り組みで、これまで、10回開催され約7万本の植樹が行われてきました。山ノ内町での活動が一区切りしたことにより、新たな植樹地として木曽町が手を上げ、昨年のキックオフイベントを経て本年の実施となりました。

9月20日の当日、木曽町三岳の太陽の丘公園で開会式等が行われ、トークセッションでは、志賀高原での植樹活動に高校生として参加し、現在、北信州森林組合で活躍されている羽入田さんも登壇し、当時の思い出や現在の仕事へのつながりなどについてお話しされました。

式典後、場所を旧御岳ロープウェイスキー場に移し、シラカバやカラマツなど2，350本を木曽郡植樹祭との併催により皆さんと楽しみながら植樹しました。

植樹では、團十郎さんや長女ぼたんさん、長男新之助さん、阿部知事、溝畑大阪観光局理事長が、一般参加の皆さんと交流を深めながら苗木を一本一本、丁寧に植えられました。

今回、皆さんの力を合わせ植樹された木々がすくすくと成長し、森林へと再生することが期待されます。


植樹活動の様子

【木曽地域振興局林務課】

「おかげさまで、長野県林業公社は還暦を迎えました」

木材需要が高まる中、将来の木材不足への備えと山村地域の活性化を使命として、昭和41年7月8日に長野県造林公社として誕生した長野県林業公社は60周年を迎えました。

お預かりして育ててきた森林は約1万7千5百ヘクタール、諏訪湖13倍の面積です。県民のみなさんの大切な山を守るため、県からたくさんのお金を借りて森を育ててきました。

当初は経済効率重視の35～40年で伐採する計画でしたが、求められる役割が「環境や生命を守ること」へ変化。現在は70～90年かけて多様性豊かな森を育てる「長伐期施業」へシフトしています。

木を売った収益で返済する予定でしたが、木材価格の低迷や、管理コストの大幅増大により財政的厳しさは続いており、今後も長期にわたって県の支えを必要としています。

しかし山を守り続けた結果、防災、水資源、ふるさと、地球環境という「4つの安心」が育ち、換算すると年間510億円相当になります。さらに二酸化炭素吸収量は「J-クレジット」として認証され、今年度は販売も好調で、森を守る励みとなっています。

5年後にはいよいよ主伐が本格化し、収穫期に入ります。残り50年、公社は木材と暮らしの安心を届けるため頑張ります。みなさんの温かいご支援、お待ちしております。

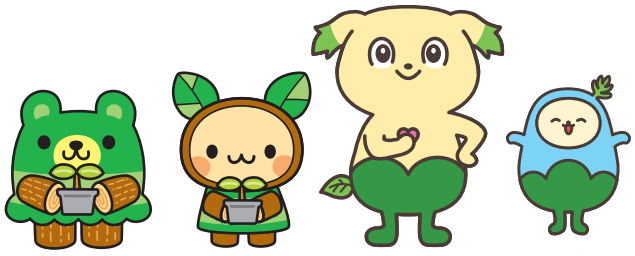
【長野県林業公社】



大鹿村西山③団地：搬出間伐

入ってて良かった！森林保険

手厚い補償※で
皆様の森林をお守りします！



近年、過去に例のない自然災害が
毎年のように発生しています。
冬から春に多く発生する
林野火災への備えも。

主伐期を迎えた森林、再造林地に安心を。

※1ha 加入時の例

樹種	林齢	加入年数	保険金額（補償額）	保険料（掛け金）
カラマツ	1年生	1年	800,000円	3,432円
ヒノキ	51年生	5年	4,500,000円	65,205円

ご加入はお近くの森林組合へ

お問い合わせ先　☎026-226-2504　長野県森林組合連合会

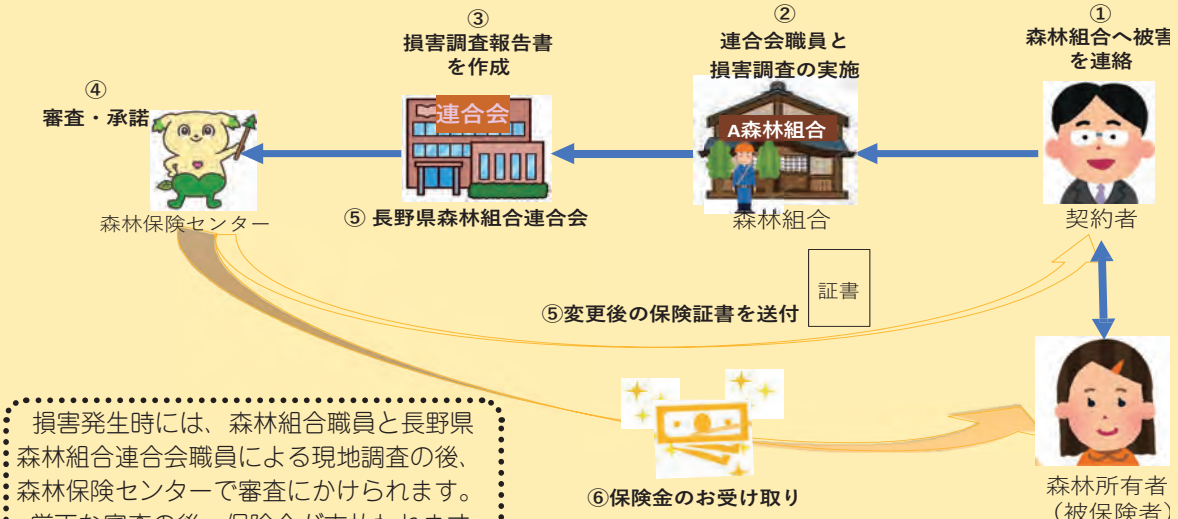
森林組合しか知らない世界

森林組合って何？どんな仕事をしているの？組合員って？…etc.
そんな森林組合にまつわる、森林組合しか知らない世界を紹介するコーナーです♪

今回のテーマ：～森林保険の損害調査～

大切に育ててきた森林が、山火事や台風、雪害などの災害に見舞われたら……。
自然災害による森林の被害は、いつ、どこで起こるかわかりません。
森林保険は、こうした万が一の災害に備えるための保険で、森林組合を窓口に取り扱っています。
では、実際に森林が被害を受けたとき、どのような手続きが行われるのでしょうか。
今回は、損害が発生してから保険金のお支払いまでの流れと、実際の損害調査の様子をご紹介します！

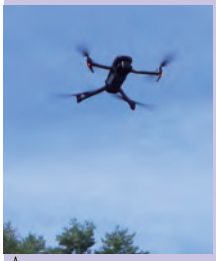
損害発生時の手続き



損害発生時には、森林組合職員と長野県森林組合連合会職員による現地調査の後、森林保険センターで審査にかけられます。
厳正な審査の後、保険金が支払われます。

損害調査に行ってきました！

損害調査では、被害が発生した森林へ足を運び丁寧に調査します。損害範囲に応じてプロット（調査区域）をつくり、全てのプロットから被害割合を抽出します。



1st STEP
被害地に到着後、ドローンを飛ばして、被害の範囲をデータ上で空から確認し、どこにプロットを取るか考えます。調査報告書を正確につくるためにも重要な工程となります。



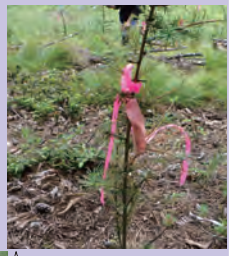
2nd STEP
被害のあった森林を歩いてまわり、被害の状況や原因、範囲を直接見て確かめます。ハチや滑落に気を付けて、丁寧に確認します。森林の所在地によっては被害地にたどり着くまでが困難な場合もあります…。



3rd STEP
道具の準備をします。今回は「方形標準地法」という方法で調査します。たくさんの道具をもって林内を歩くので、2人以上で調査を行うのが基本です。
損害状況の写真を残すためのカメラも必須です。



4th STEP
ポールとメジャーを使って10m×10mのプロットを取ります。今回は被害地全域から偏りなく抽出した6箇所のプロットをつくりました！1つのプロットには15～30本の木があり、被害の割合を計算します。



5th STEP
プロット内の被害の状況を1本1本確認し、健全木にはピンク色、損害木には水色のテープを巻き、被害割合を可視化します。
調査の記録を事務所でまとめ、QGIS等を用いて報告書を作成します。

損害調査では、実際に森林へ足を運び、被害を受けた木の本数や状態などを確認します。
今回ご紹介した写真を通じて、森林保険を支える現場の仕事を少しでも身近に感じていただけたでしょうか
森林保険は、あなたの森林が災害にあった時のための保険です。山火事に自然災害、避けられなくても備えはできます。
「自分の山も森林保険に入っているのかな？」「森林保険について詳しく知りたい」そんなときは、お近くの森林組合へご相談ください。

令和8年度 林業基本問題研究会



▲造材データから地位の判定など、今までになかった検証が可能になるなど、使い道が期待されている



▲コストをあまり掛けず健全な植栽木の育成を実現させるべく、真剣な議論があった

9月10日～11日に林業基本問題研究会による視察をを行いました。

県内各地の森林組合職員・市町村林務担当者計19名が参加し、初日は、有限会社天女山の先進的林業の取組状況、2日目は、東信森林管理署管内の長和町大門国有林の造林地を視察しました。

有限会社天女山では、集材した木材の材積や長さを自動で計測し、データを事務所のPCや納材先に情報として送信できるICTハーベスターの見学を行い、造材のデモンストレーションや造材データの管理や納材先とのやり取りについて解説していただきました。事務所での座学は、レーザードローンを使った森林資源量の解析手法や有限会社天女山が進める林業DXについての取組状況等についてご紹介がありました。

2日目の東信森林管理署管内の造林地では、国有林地で実施している下刈りの手法である「筋刈り」実施後の森林状況の視察を行いました。低コスト造林をねらい、苗木の植付間隔や下刈りにおいて従来とは異なる方法を用いて森林を生育させているため、苗木の間隔による成林状況への影響や、活着後の植栽木の形状についての質問等が挙がりました。

ながの森林・林業フェア 長野の森で遊ぼう



10月17日、長野市の茶臼山自然植物園で開催された「長野の森林・林業フェア～長野の森で遊ぼう～」に出展しました。

このイベントは、長野市や林業関係団体で構成される実行委員会が主催し、子どもから大人まで幅広い世代が森や林業に親しみ、その魅力や役割を体験できる普及啓発イベントです。

当日は爽やかな秋晴れに恵まれ、茶臼山の豊かな自然に囲まれた会場には、多くの来場者が訪れました。木や森林の魅力を五感で楽しんでいただける絶好の一日となりました。



当会では、伊那市西箕輪の「やまとわ」で製造する経木「Shiki（シキ）」を使用したランタンやオーナメントづくりのワークショップを実施しました。また、当会が参加する「香るNAGANO推進コンソーシアム」の活動の一環として、長野県産精油のPRを目的に「木製ガチャ」を設置し、「つなぐ里山」で製造したアカマツなどの精油を使用し、「香りガチャ」と、ディフューザーとして活用できる「アロマペンダントガチャ」を販売しました。

多くの皆さまにお立ち寄りいただき、世代を超えて木に触れ、香りを感じながら交流する様子が見られ、会場は終始笑顔と活気に溢れていました。

2026 長野県協同組合フェスティバル



▲子どもたちに大好評だった「木こり体験」
◀たくさん集まった街自慢



10月4日に長野市 ながの表参道セントラルスクウェアにおいて、「長野県協同組合フェスティバル２０２６」が開催されました。

当イベントは、県内における協同組合間連携の一環として、組合員同士の交流を図るとともに、協同組合の活動を広く皆様に知っていただくことを目的に毎年開催されています。

当日は秋晴れに恵まれ、隣接する中央通りで開催された「善光寺表参道秋まつり」との併催効果もあり、多くの来場者で大いに賑わいました。

会場では、JAや生協、ワーカーズコープなどの協同組合団体をはじめ、社協、行政、ＮＰＯなどの計35ブースにより、野菜や果物などの農産物、蕎麦やフリーズドライ食品などの加工品の販売のほか、乳しぼり体験や地震体験など、さまざまな催しが行われ、親子連れや観光客など多くの方が楽しみました。

当会のブースでは、林業資材や乾椎茸の即売を行ったほか、スギ丸太をノコギリで切る「木こり体験」を実施しました。スタッフからコツを教わりながら、親子で力を合わせて一生懸命に丸太を切る姿が見られ、会場にはたくさんの笑顔が広がりました。

今回のフェスティバルを通じて、幅広い世代の皆様に協同組合の活動や森林組合の役割、森林・林業について身近に感じていただく機会となりました。

長野県協同組合連絡会 構成団体相互訪問・見学会



10月8日に長野県協同組合連絡会「構成団体相互訪問・見学会」が開催されました。

昨年の国際協同組合年を契機に、組織間の相互理解と連携強化を目的に企画され、希望が多かった森林組合系統が訪問先となりました。

当日は、長野県協同組合連絡会会員のJAグループ職員や労働者協同組合ワーカーズコープながの、長野県労働金庫の職員のほか、当会では、協同組合連携や異業種交流を目的に長野県林業職員協会の女性職員研修会として参集し、さらに東京から（一社）日本協同組合連携機構（ＪＣＡ）会員団体の有志の「連携推進チーム」が加わり、総勢39名が参加しました。

午前中は、長野森林組合が更新伐施業を行っている信濃町の野尻県有林にて、プロセッサー等高性能林業機械を使った林産施業現場を見学。午後からは北信木材センター土場にて、集荷され市売りされた素材丸太や自動選木機を見学し、説明を受け、グループワークで参加者同士感想を共有し交流を深めました。

社会の中で様々な役割を担う協同組合。相互で事業理解を進め、より多くの方に広めて味方を増やす取り組みの大切さを改めて感じました。



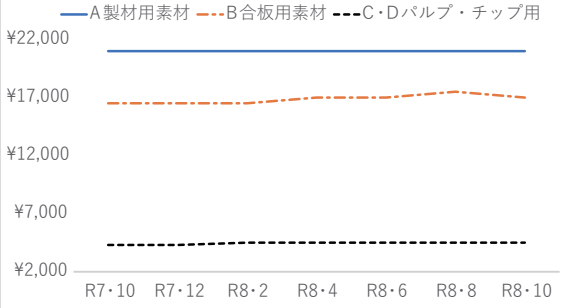
◀北信木材センターにて、前日の市売に掛かった丸太について説明を受ける参加者
丸太の値段は果たして高く感じるのか、安いのか？

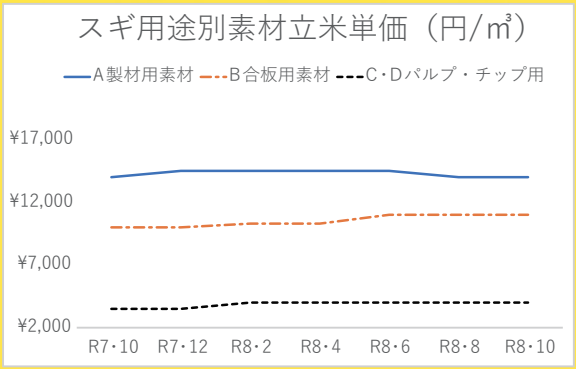


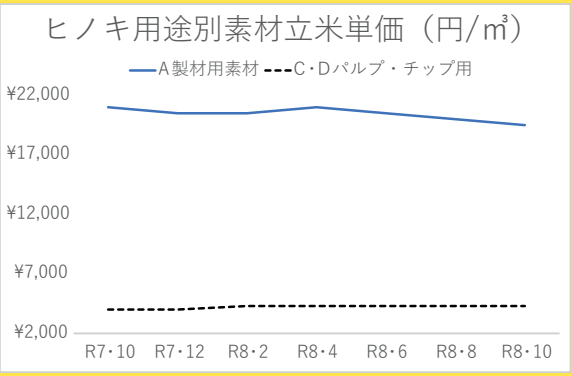
▶秋晴れの森林の中で、普段はなかなか目にすることのない林業の仕事や鮮やかな木々の姿、伐りたての木の香りに、五感を通じて楽しんだ

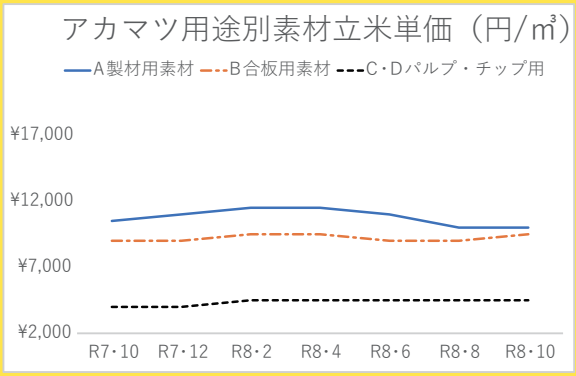
令和八年十一月十日発行　長野の林業通巻四〇八号

長野県の木材市況









※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

10 月の県内各木材センター市売にご出品いただき誠に感謝申し上げます。

秋の伐り旬を迎え、クリ、ナラ、クルミ、サワグルミ、ウダイカンバ、ミズメなどの広葉樹良材が集まり、活発な応札となりました。

製材用丸太については、スギ、ヒノキ共に需要回復傾向にあり、柱取りや中目以上などに引き合いがある状況です。カラマツは中目以下で需要が継続しています。

中東を巡る情勢の影響により合板向け丸太については減産体制に入るなど厳しい状況ですが、今後、冬期需要を見据えた素材を確保する動きもあります。

伊那木材センターでは 11 月 10 日（火）、中信木材センターでは 11 月 11 日（水）、北信木材センターでは 11 月 12 日（木）に記念市が開催され、その後も納市、年明けの初市と特別市が続いてまいりますので、集荷のご協力をお願いいたします。

需給に応じた仕分け・椪積みをしてまいりますので、これから伐採を計画されている方はご相談ください。

【長野県森林組合連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の登録をお願いするとともに、出荷の際には、納品書に合法木材認定番号を記載し、令和７年４月１日施行の「クリーンウッド」法に伴い、合法的に伐採された木材であることの証明する書類（伐採届、森林経営計画認定書 等）の提出をお願いいたします。

※安全のため荷下ろし・積込の際には車止め、またヘルメットの着用をお願いします。

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！
最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！
「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪

長野県森連

発行　長野の林業編集委員会
事務局　長野市岡田町長野県林業センター内
（一社）長野県林業普及協会　電話〇二六（二二六）五六二〇
（一社）長野県林業センター　電話〇二六（二二七）五〇一五
Eメール rinfukyo@giga.ocn.ne.jp
Eメール nagarin-center1@qa3.so-net.ne.jp